

多賀



秋号

No.60

平成30年10月1日発行



十月から三月の祭事暦

十月

- 献茶式 十月 十六日(火)
- 神嘗祭遙拝 十月 十七日(水)

十一月

- 明治祭 十一月 三日(土)
- 金沢稲荷神社例祭 十一月 八日(木)
- 大宮祭 十一月 十五日(木)
- 新嘗祭 十一月 二十三日(金)

十二月

- 御煤払式 十二月 二十日(木)
- 天長祭 十二月 二十三日(日)
- 大祓式 十二月 三十一日(月)
- 除夜祭 十二月 三十一日(月)

一月

- 歳旦祭 一月 一日(火)
- 元始祭 一月 三日(木)
- 古札焼納式 一月 十五日(火)

二月

- 節分祭 二月 三日(日)
- 紀元祭 二月 十一日(月)

三月

- 祈年祭 三月 十七日(日)
- 春季皇霊祭遙拝 三月 二十一日(木)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- 御朔日参り 元日を除く毎月朔日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日・二十八日

九月 古例祭



頭人騎馬供奉

恒例の九月古例祭が九月九日に斎行されました。本年の頭人は、多賀町四手区より滝川徹人氏が選出され晴れやかにご奉仕頂きました。

四手区からの頭人選出は三十年ぶりとなり、前回（昭和六十三年（昭和最後の古例祭））の奉仕記録があります。今回も平成最後の古例祭奉仕と、不思議なご縁を感じるめぐりとなりました。

今年は四月の古例大祭と同じく、九月古例祭も日曜日と日柄も良く多くの関係者が見守る中、祭事が恙なく斎行され、列次を整えたお渡りは華やかに町内を練り歩きました。



頭人玉串拝礼



頭人

滝川 徹人
たきがわ てつひと

昭和33年 6月17日生（満60歳）
略歴 滝川緑化 代表
四手区氏子総代
NPO法人いろは組 理事長



豊凶を占う古知古知相撲

講社大祭（献幣使）

九月二十八日、多賀講社の大祭である講社大祭が厳かに斎行されました。本年は、岐阜県安八町の結多賀講より伊藤一成氏がご奉仕されました。

栄えある講社大祭を奉仕して

安八町 結多賀講

伊藤 一成



この度、全国多賀講員の皆様を代表して献幣使を奉仕させて頂きました。

当日は全国講員のご家族のお幸せと多賀講の弥栄をお祈りし奉仕させて頂きました。私は元より結多賀講として大変名譽なことで存じ上げます。又ご奉仕にあたり講世話人様のご支援のもと大役を務める事が出来ましたことを有難く感謝申し上げます。



東に金華山、西に伊吹山を仰ぐ緑と水に恵まれた濃尾平野に位置する私ども岐阜県安八町は、お湯と笑顔が湧き出る安八温泉（天然温泉）と「縁結びの神 和合円満」の神として崇敬され多くの歌人に詠われてきた結神社が有名です。この地で結ばれた結多賀講の代表としてこの度のご奉仕に与り感謝申し上げます。今後とも多賀信仰を継承し、大神様のご守護に感謝すると共に、全国三万五千名の講員皆様の益々のご多幸とご繁栄をご祈念申し上げご挨拶とさせて頂きます。

新嘗祭（豊年講秋季大祭）

十一月二十三日、豊年講員よりご献納に預かった初穂米をご神前に積み上げ、厳かに新嘗祭が斎行されます。

本年の豊年使は、竜王町鏡山地区大世話係山中一郎氏がご奉仕され、五穀豊穡の感謝が捧げられます。

豊年講秋季大祭豊年使を奉仕するにあたり

豊年使

山中 一郎



この度、豊年使として新嘗祭をご奉仕させて頂くことが決まり、今日まで、驚きと緊張の日々を過ごしてまいりました。私自身、平成二十三年より大世話係を預かり、鏡山地区二百七十戸の初穂米をお多賀様に献上してまいりました。今回の大役は当地区の名譽であると深く感謝しております。

今年で七十八歳になる私は現役時代、京都の「たち吉」に勤務し、定年後は趣味であるウォーキングを楽しみ、東海道や中山道等を歩き充実した日々を送っております。最近では町のゲートボール連盟の会長も仰せつかり、地域の皆様とスポーツを通じてつながりを深め、健康に過ごせるように日々邁進しております。

新嘗祭当日は、多賀の大神様、豊年講員様に失礼の無い様、精いっぱいご奉仕させて頂く所存でございます。





全国の多賀講員さんご紹介

去る六月十七日、長野県飯田市の西^{にし}多^{あかた}賀講より金田シズゑ氏（百八歳・明治四十三年生）が来社され、豊^{かじや}饌としてご本殿でお参りをされました。この度貴重なご寄稿を頂きましたのでご紹介申し上げ益々のご長寿をお祈り致します。



昨年9月 飯田市市長祝賀訪問の様子

いのち 生命の神様 お多賀様に感謝

金田 シズゑ



●プロフィール

西多賀講 金田 シズゑ

18歳で上京し「高島屋」の和服部で勤めた後、島津忠重公の和服専属仕立人となる。

野菜の煮物とお肉が好物で、テレビでプロレス観戦を好み、現在は娘夫婦と暮らしている。昨年9月には飯田市最高齢者として地元市長の祝賀訪問を受ける。

明治四十三年に生を受け、今年で百八歳を迎えることになりました。これもひとえにお多賀様の延命長寿のご神徳によるものと感謝しております。

私とお多賀様とのご縁は、娘が生後三ヶ月で肺炎を患い医者にも見放された際、親戚の伯父がお多賀様に願掛けをして下さり、生命を救ってくださった事がきっかけでした。

その後、娘が無事成人を迎えた昭和三十八年、お礼参りとして地域の多賀講員の方々と神社に一泊させていただき、お参りさせて頂いた事を今でもよく覚えております。

私自身も九十歳の時に大火傷に合い、年も年でしたので医者からは「覚悟して下さい」と云われましたが大神様のお導きにより生命を救っていただきました。

金田家の生命神様であるお多賀様に、私も若いころは良くお参りをさせて頂きましたが、年を取ってからは回数も減り、今回は百三歳以来、五年ぶりのお参りとなりました。いっお参りさせて頂いても清々しく気持ちいが穏やかになり気分がとても良くなります。

今後も地域講社を通じてお多賀様のご加護を受けながら、のんびりと暮らせればそれが一番幸せな事だと思い、日々過ごしております。

多賀講永年世話係表彰

今後もかわらぬお力添えと、健やかにお暮らしの程お祈り申し上げます。
尚、被表彰者選出は現在登録されている就任年月日より抽出しました。

就任三十年世話係

周智郡 安間 紀雄
一宮市 樽井 神夫
稲沢市 樋江井重男
知多郡 板谷 武雄
知多郡 吉戸 貞利
大垣市 早野 好則
下呂市 千田 欣一
不破郡 小畑 昭夫
関市 兼村 一雄
大津市 上野 庄平
栗東市 辻 一男
東近江市 佐々木 勉
東近江市 久保 武雄
米原市 村上 友一
松阪市 谷口 政巳
多気郡 吉田 正
向日市 小寺 宣之
相楽郡 奥田 十郎
堺市 井上 喜嗣
岸和田市 橋本 光義
篠山市 中山 初雄
篠山市 平野 勝夫

就任十年世話係

飯田市 久保田勝巳
下高井郡 児玉 賢一
三方上中郡 田中 練朗
名古屋市中 丹羽 幸
名古屋市中 小崎 甚一
名古屋市中 小出 恵子
名古屋市中 小嶋 榮之
名古屋市中 小嶋 恵子
一宮市 平松 信之
一宮市 市川 光宏
豊田市中 柘植 宣彦
豊田市中 鈴木 錡
豊田市中 藤田 徳光
知多郡 藤田 徳光
知多郡 齊藤 季一
岐阜市 水谷 照男
岐阜市 後藤 文彦
加茂郡 阿部 嘉弘
高山市 大宮 民安
郡上市 村瀬サカエ
安八郡 堀 正夫
掛斐郡 小寺 峰雄
不破郡 吉村 定
関市 平田 勝
大津市 井上 一夫
大津市 高野 雅夫
東近江市 小梶 忠雄

彦根市 吉田耕一郎
彦根市 寺村 芳夫
彦根市 草山 俊昭
長根市 杉本 惣市
長根市 河崎 廣次
甲賀市 西尾 俊彦
甲賀市 広瀬 保夫
甲賀市 濱田 義孝
甲賀市 市井 博
甲賀市 野口 康和
甲賀市 藤橋 克己
甲賀市 宮林 康自
甲賀市 久保 清
甲賀市 黒河 盛昭
東近江市 野田 金一
東近江市 深尾忠一郎
東近江市 大前 欽市
東近江市 村林 一寿
東近江市 植田茂太郎
東近江市 西澤源之輔
犬上郡 若林利衛門
米原市 吉田 京
米原市 伊部 宏
長浜市 藤居 紀子
長浜市 松橋 閑夫
近江八幡市 西村 平造
名張市 堀川 茂子

名張市 山中 功
名張市 瀧野 隆夫
伊賀市 豊濱 史郎
伊賀市 直居 量行
伊賀市 梅岡 義正
名張市 重住 光俊
伊賀市 宮本 榮作
伊賀市 山本 茂樹
津市 大向 継男
宇陀郡 藤本 知也
城陽市 今堀 悌三
京都府 金辻 修
木津川市 加田 春治
木津川市 田仲 良行
相楽郡 門川 英二
枚方市 竹島 昌之
枚方市 村上 昇
河内長野市 天川 雅丞
尼崎市 山村 康雅
三田市 森本 成宜
篠山市 酒井 昌宏
篠山市 清水 義久
岡山市 牧 純生
赤磐市 塩見 眞澄
(敬称略)

多賀講新任世話係ご紹介

何卒よろしく願ひします。

彦根市 北川 秀生
大津市 溝上 正直
海津市 松岡 直人
安八郡 堀 正治
米原市 高橋 明満
三重郡 位田 義哉
和泉市 橘 元子
丹波市 原田 哲夫
八尾市 森田 千清
篠山市 森本 則章
丹波市 藤原 敏子
河内長野市 上奥 雅勇
名張市 辻 文彰
東近江市 小梶 清嗣
一宮市 河村 治夫
海津市 佐藤 啓子
美濃市 森 政行
関市 山下 義一
彦根市 角田 一郎
彦根市 田中 喜吉
長浜市 辻川 原藏
栗東市 坂口 文雄
蒲生郡 澤田 友男
蒲生郡 曾羽 道明
東近江市 小椋 重男
東近江市 大橋 甚六
堺市 神谷 博之
三田市 南中 弘
羽島郡 葛谷佐多子
甲賀市 藤井 満

篠山市 山田 倫義
飯田市 宮下 正一
一宮市 酒井 正義
大垣市 三和 隆夫
可児郡 伊佐治義広
大津市 服部 豊
甲賀市 宮治 長一
蒲生郡 島田 巧
東近江市 外村 善朗
伊賀市 藤井 泰寿
伊賀市 南 秀良
伊賀市 山中 勝仁
川辺郡 置山昭太郎
神戸市 山中セツ子
徳島市 村田 忠義
相楽郡 谷村 隆弘
掛斐郡 松居 治良
掛斐郡 中村 照子
甲賀市 清水 栄一
松阪市 高橋 淳夫
長岡京市 名和 幸夫
大垣市 宮川 弘久
長浜市 田中 伸和
河内長野市 西川 正宣
長浜市 寛 欽次
一宮市 小笠原政芳
一宮市 服部 晴彦
二海郡 服部 幹夫
可児郡 生田 幹夫
(敬称略)

多賀大社の神仏習合と神仏分離 IV

本号をもって、明治時代までの多賀大社における神仏習合と、それ以降の神仏分離について皇學館大学副学長 河野訓教授よりの寄稿は最終となります。

一 神仏分離

慶応四年（明治元年・一八六八）三月に神仏分離令が発せられると、四月十七日に元別当から彦根の役所に「復飾元別当願書」が出され、多賀大社での神仏分離が始まった。そのような神仏分離の後、明治四年一月五日、いわゆる「社寺上知令」が發布さ



真如寺山門 向かって左の標柱に「多賀大社旧本地仏」とある。

れた。正式には「社寺領現在ノ境内ヲ除クノ外上地被仰出土地ハ府藩県ニ管轄セシム」というもので、江戸幕府から安堵されていた朱印地や年貢を免除されていた除地は没収されることになった。

諸国社寺由緒ノ有無ニ不拘朱印地除地等従前之通被下置候処、各藩版籍奉還之末社寺ノミ土地人民私有ノ姿ニ相成不相当ノ事ニ付、今度社寺領現在ノ境内ヲ除ノ外一般上知被仰付、追テ相当禄制相定、更ニ蔵米ヲ以テ可下賜事。

これには各藩から安堵されていた黒印地も含むと解され、最後に相当の蔵米を下賜されると記されているとはいっても、社寺領が上知となると収入が減り、各社寺には人員減が迫られことになった。

明治五年正月十七日条の多賀大社の日記には多賀社の神職が付近の神社へ任じられたことが記されている。具体的には社家の犬上吉元と車戸宗功が高宮の祠官に任じられ、犬上吉元は都恵神社の祠官にも任じられた。同じ社家の北（小）川忠成は川瀬宮（河瀬神社）の祠官に、元般若院の出である青山敏次は大瀧神社の祠官に任じられ、社家の大岡宗延は多賀

皇學館大学副学長

河野 訓（かわの さとし）

昭和三十二年宮崎県生まれ。

東京大学大学院修了後、文化庁宗務課を経て皇學館大学教授。

現在、同大学副学長。

大社祠掌に任じられた。また、多賀大社祠官には宇津木久岑祠官（旧彦根藩士）が任じられ、多賀神社は宇津木久岑祠官、大岡宗延祠掌が奉仕することになった。

二 境内の建物の変遷と神仏分離

多賀大社では江戸時代の寛永年間に未曾有の大造営が行われたが、その様子は江戸時代が多賀社参詣曼荼羅（多賀大社所蔵・新本）に委しく描かれているが、境内には本殿のすぐそばに護摩堂、如法堂が描かれ、本堂に隣接して不動院が描かれている。その後、安永二年（一七七三）四月の大火では社頭が全焼し、各坊が焼失したが、翌三年には大書院、奥書院などが再建されている。天明二年（一七八二）の火災、寛政三年（一七九二）の台風など、災害が相次ぎ、文化二年（一八〇五）に刊行された『木曾路名所図会』（後に『近江名所図会』にも転載・収録される）にある多賀大社の図に「本社跡」「不動堂跡」「本地堂跡」などと焼失した殿宇の跡が記され、「近年社頭残なく回禄に及ぶ。今ハみな仮宮也」と説明されているのは、この火災の後遺症をいつているのである。しかし、寛政十一年（一七九九）には勅化御免の許しを得ており、文化五年（一八〇八）には上棟、同九年には正遷宮が行われている。前述のとおり、新政府の神仏分離令以降、神社の別当や社僧に復飾の命が出され、仏教に関係した建造物や仏像、仏具類を置くことが禁じられた。その

結果、僧侶が還俗して社家となるなど、多賀大社でも大きな変革が生じた。建造物について言えば、前述した上知の際、明治四年に彦根藩に提出した「現今地景絵図」では、本地堂を祓殿とし、庵室を忌殿としている。しかし、明治七年一月十九日に火災が発生し、本社末社は無事であったものの、旧本地堂、旧庵室が焼失した。それについて述べた日記では「火ノ縁等の儀取調べ候処、空室に御座候間、一切相分り申さず候」と、空室であったため原因が分からなかったと記している。

三 仏像・仏具類

多賀大社には明和四年（一七六七）九月の時点での神社の宝物を書き上げた「多賀大社御宝物附」があるが、現在はその一部しか残存していない。明治四年の騒動でほとんど行方が分からなくなったと考えられている。

西村為示氏の「多賀大社神佛分離史料」（『多賀大社叢書 論説篇』所収）に古老の言伝えとしておよびそ次のように記している。

この年の五月以前に社家側は付近の住民と共に不動院及び他三院に乱入し、仏像を始め、仏具類を投棄した。付近住民は宝物・什器類を争って奪い、襖絵まで切りとった。本地仏は本地堂から搬出され、表門付近の露天に遺棄された。

また、五月二十六日には氏子総代が本地仏を貰い受けてやって来たときのことを次のように記している。

夜四つ時に氏子拾三村惣代トシテ、一円村奎太夫、尼子村藤平、四ッ屋徳平、下之町林右エ門都合四人罷り出で、今度、本地仏、氏子中信仰致したき心組に御座候間、何卒兼ねて頼み置き候通り、仏鉢斗り頂戴仕りたく、此の段宜しくお聞届け成し下され、と頼み出で候。依りて大賀氏聴取し置き候事。

翌、二十七日には神社内で相談のうえ、速やかに氏子に譲り渡すことが決まった。午後には本地仏を預けてあった安養寺を呼び、氏子に渡すことになったので、氏子がもらい受けて来たら渡すように告げた。

六月一日には氏子らが本地仏など本地堂の仏像をもらい受けてきた。そのとき引き渡した仏像などを記した目録によれば、「本尊と脇立仏二体」「三尊仏類額一面」「四天王」「摩耶婦人（女）一体」「五如来」「十羅刹女」「普賢菩薩一体」「毘沙門天一体」「鬼子母人（神）一体」などである。最後に「右の通り氏子者え書



真如寺阿弥陀如来坐像

（現在は重要文化財）もと多賀大社本地堂本尊。

付渡し置く事」とある。本地仏の木像阿弥陀如来は現在、多賀大社駅から多賀大社に向かう参道にある真如寺の本堂に他の諸仏菩薩の尊像とともに安置されている。大正十五年（昭和元年・一九二六）には真如寺所有の木造阿弥陀如来として国宝に指定された。

これに対し、多賀大社では大正十五年から昭和のはじめにかけて、国宝に指定された阿弥陀如来像の所有者名を「多賀神社」に戻そうと当時の長谷外余男、高根政次郎両宮司が滋賀県と交渉した。昭和二年には名義訂正に関する手続きも進められ、七月二十五日には滋賀県学務部長から官幣大社多賀神社宮司宛、明治四年に真如寺に預け入れた仏像が、前年八月に真如寺の所有として国宝に指定されたが、精査したところ、多賀大社のものであることが判明したので目下、名義を訂正する手続き中であるとの回答があった。しかし、その後、多賀大社の昭和大造営（昭和初年～八年）の間は県に無益の刺戟を与えないようにという配慮からしばらくこの運動は中止された。昭和九年四月に長谷宮司が樞原神宮宮司に栄転し、後任の高根宮司が在任八か月で急逝したこと、県庁の部長、課長の転任が相次ぎ、この問題は立ち消えになったようである。（この経緯は『多賀大社叢書 論説篇』所収「多賀本地仏始末記」に詳しい）

※四回にわたり「多賀大社の神仏習合と神仏分離」と題して掲載させていただき、感謝にたえません。益々の多賀大社のご隆昌をお祈り申し上げます。

[illegible]

神輿庫屋根葺替工事

この度、今上陛下御在位三十年を卜し、その記念事業として損傷が著しい神輿庫の修繕工事が行われた。

神輿庫は昭和十一年に平屋鉄筋コンクリート造りで改築されてより八十二年を経て特に屋根の老朽が目立っておりましたが、鮮やかな銅板屋根に葺き替えられました。



修繕工事を終えた神輿庫

新たな「いのち」に思いを込めて

今春より安産祈禱を受けられた方に祈願の小絵馬の授与を開始しました。



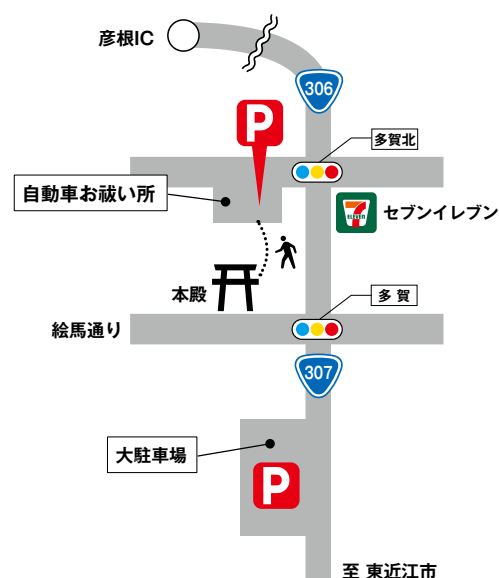
安産の象徴とされる犬が描かれた小絵馬に、それぞれの思いをご記入頂き、子安神社に新設された絵馬掛けに願いを掛けて頂いております。



祈禱者駐車場

自動車お祓い所の一部を本社でご祈禱を受ける方の駐車場（約30台）として開放しております。台数に限りがありますがご利用下さい。

なお、満車の際は従来通り大駐車場（無料）にお廻り下さい。



新授与品ご紹介

今年から新たに三種の授与品をお頒ちしております。皆様の悩みや不安、困難の支えになれば幸いです。



勝ち勝守り
1,000円



合格だるま守り 1,500円



交通安全カード守り
1,000円



お子様のすこやかな成長を
ご家族でお祝いしましょう

**多賀大社で
七五三**

感動をそのまま思い出に

要予約 多賀大社 七五三 記念パック

祈禱 衣装 写真

3点セットで **6,200円** お得!

おひとり様 通常31,200円

25,000円 (税込)

〈本殿祈禱は追加5,000円承ります。〉

期 間 **10月1日~11月30日**







多賀大社 記念パックお問い合わせ **0120-43-6160** 9:00~16:00

観月祭 献詠献句

短歌特選

ちはやぶる 多賀の社は 華やきて
雅楽の音色 月に響けり
ちちろ鳴き 雅楽奏でる 御社に
月昇りきて 諸人照らす

俳句特選

平成の 御世の最後の 月の宴
千木照らし 神杉渡る 望の月



彦根市 細田恵真子
彦根市 佐古 徳子

多賀町 宮野 昭子
長浜市 山岡美和子



参集殿からのご案内

挙式・披露宴承り中

縁結びの神様に誓う
厳やかな結婚式

広い境内や神聖な杜
国の名勝である
お庭を望むロケーションは
撮影スポットとしても最適!



祝 七五三、
お宮まいり

完全
予約制

お子様の健やかな成長をお祝いして
**お多賀さんで
お祝いの食事会...**

10月・11月の期間中、特別プランをご用意いたしました。
記念写真・レンタル衣装のご予約も承っております。

お問い合わせ —————

0749-48-1103 (参集殿直通)



会席膳 5,400円~



お子様料理 1,620円~



松華堂 3,240円~



御食初膳 3,240円~

※写真はイメージです。 ※別途・サービス料を頂きます。

※完全予約制(年中無休)詳しくは
ホームページをご覧ください。

多賀大社参集殿

検索

来年の干支、己亥（つちのとい）は

新しい植物の新芽が表れようと

エネルギーが蓄えられている状態を表しています。

自分の目標をしっかりと定め

心を落ち着けて物事を始めようとすれば

良い方向に芽が表れてくるのではないのでしょうか。



首振りえと張子



えと張子



えと鈴



えと鈴…………… ￥800
えと張子…………… ￥800
首振りえと張子…… ￥1,000
鎗矢…………… ￥2,000
守護矢…………… ￥1,000

ふく枡…………… ￥2,000
熊手（特大）……… ￥10,000
熊手（大）…………… ￥5,000
熊手（中）…………… ￥3,000
熊手（小）…………… ￥1,000

人事

昇進

【三級上】稲毛 友幸

（平成三十年八月三十日付）

【禰宜】川原 隆司

（平成三十年六月十五日付）

【二級】城 秀樹

（平成三十年七月十日付）

【二級】奥 隆栄

（平成三十年七月十日付）

採用

【舞女兼事務員】大西 瑞生

（平成三十年三月二十五日付）

西澤 杏

（平成三十年三月二十五日付）

退職

【禰宜】大宮 修身

（平成三十年五月一日付）

【権禰宜】古野 宗俊

（平成三十年三月二十五日付）

【舞女兼事務員】北川 美穂

（平成三十年六月三十日付）

西日本豪雨義援金御礼

去る七月、西日本地域を中心に甚大な被害を及ぼした「西日本豪雨」に対し、参拝者の皆様からお寄せ頂いた義援金は共同募金会を通じて被災地にお届けさせて頂きました。皆様方のお気持ちに感謝申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

表紙の写真は当社のインスタグラムでアップしたものです。

年間祭事や四季折々の社頭風景を載せています。

今後魅力ある多賀大社を発信していきたいのでフォロー（いいね）をお願いします。



@tagataisya.official